©2022 YHAL, YITP, Kyoto University
京都大学基礎物理学研究所　湯川記念館史料室

37、9、11.(火)　京都新聞

第3種郵便物認可　第29053号

軍縮への努力確認

パグウォッシュ会議　帰国の湯川博士語る

八月二十七日から英国で開かれていた第九、十回パグウォッシュ会議に日本学術会議代表として出席していた湯川秀樹京大教授は、十日午後十時半羽田着の日航機で帰国した。湯川博士は空港で記者会見し「世界各国は全面完全軍縮は実現可能だとして努力している。日本もこの問題に真剣に取り組まねば世界の大勢に遅れることになる」とこんどの会議の意義を次のように語った

一、この会議では米ソ両国を含めすべての国の科学者が完全軍縮が経済的な破たんなしに達成できることを確認したことは大きな収穫だ。日本はいままで核兵器反対運動で大きな役割りをはたしてきた。しかしここで止まっていては、世界の大勢に遅れてしまう。日本にとっても軍縮と経済の問題はいちばん大切なことであり、いまから日本全部の人がこの問題を検討してほしい。

一、五年前にわずか二十人の科学者が集まって始めたパグウォッシュ運動はいまや米、ソ、英はじめ世界のおもだった物理学者がほぼ全部参加するまでに成長した。ことしの会議には、アフリカ諸国を含め約二百人が参加した。いろいろな国で、この運動を進める地域的なグループも生まれている。日本の「科学者京都会議」もその代表的な例だろう。世界平和実現のために積極的に活動する科学者はもはや少数派ではなくなったといえる。

パグウォッシュ会議に出席、羽田空港に着いた湯川博士

c081-013-012